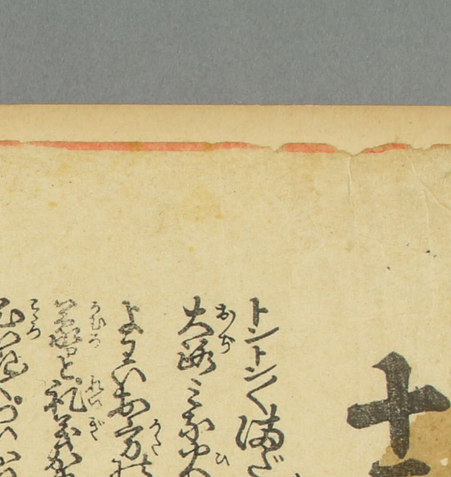
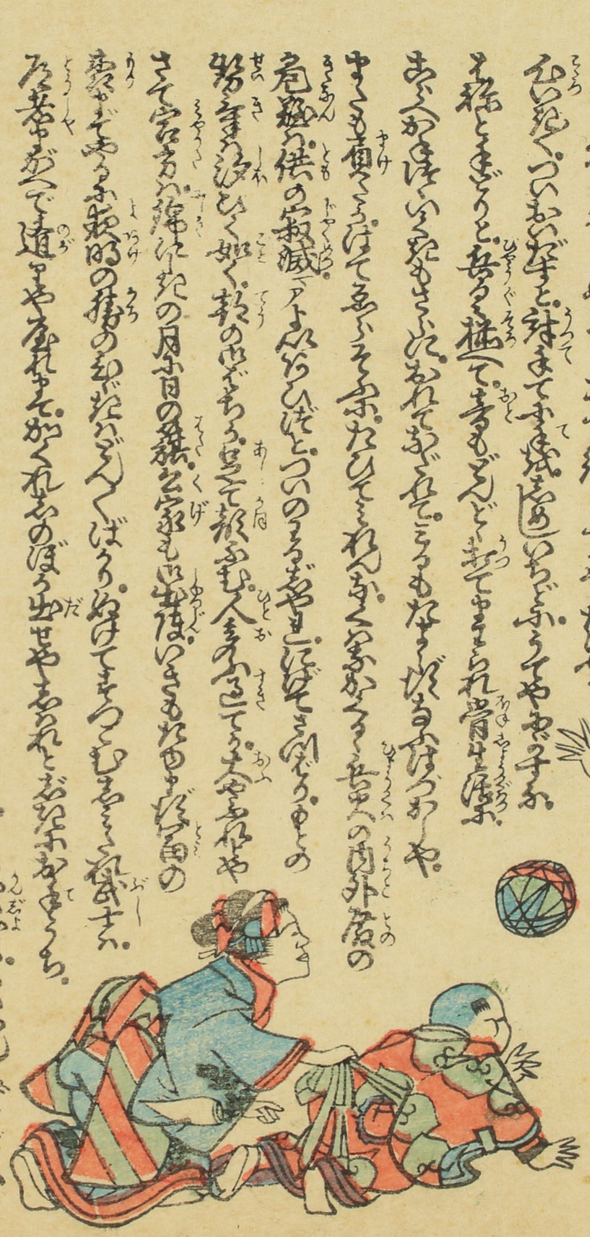
十二月まがく歌





トントンくはぐ初春ぶくてやぶ小枝様
大晦こもりとはほ二つ積善徳の川がく
よろこいあるがよいかくもで。おごだやぶ神処
まゐと礼ぶやまぬとも。おう縄まやりなぶ
ふいねく。ついもいぶと。ねまてすぶ風ぶ。ふうてやぶ子ぶ
そ稼とまごうと。春ぐ様で。まもごんどまでやまぶ
まくかぶいぐねもさんだ。おれでおぐれで。ごろもなすぐ
やくも雨さうぶけて。ふいそぶ。なひでこれんおくぐ
危難の供の報滅。アよいらひぶとついのうぐぶ
勢まうふひく如く。数のぶぢら。当て振ふむ人ぶ
さて宮方の綸旨の月日の雅。公家も出陣ぶ
露がそもる振舞のおだんぐくばろ。ぬけて
み善やがで。通ぶやぶれぶそ。かくれものぼう出ぶ
ねぶさうやよいさみばう。いもとれじとうぶ
きぼひて浪花町中。ふ花ぢくんの青二日から好
こまおそくぶ。注のぶ揚やけるふぶそ。おとふ
神さ句。六日七日や。植葉城のぐんと様とび。
さそもたのこけいさる句でもはうまいやく
る。味かくのびうん。これもぶうぐとくだっ
の。銀の注きとや。ふかくれてみてまくこ
あ一法三会のもとぶおとおこ持く。おぶ
ふ紀堂ぶ学問お持じやぶやぶもさん。
法でもおふーてめくみらまつ。ぶくま手ま
まいおろびやそそのぶやふかの時ぶそ
う注ぶやせんやけうこうじやうの奴
治る六十篠もつ注ぐく祥陽。綾代